

あれから313年

中央義士会報

創立明治41年

平成28年12月発行 No.68



中央義士会発刊
「義士大観」(大正5年)より

元禄15年8月12日隅田川舟中会議

京円山会議の決議を報じるため、堀部、潮田の報告を受け22名の浪士が待乳山金竜山聖天社の渡し場より、二艘の舟に分乗して舟上会議を行った。

報告・平成28年11月6日(日)我が中央義士会の有志も赤穂義士に因み、待乳山聖天・本龍院に集合、舟中会議参加人数22名と同数の参加者で舟中会議の気分を味わった。元禄15年中、義士たちはこの待乳山聖天や浅草寺も歩いていたようで漢詩や俳諧も残っている。京円山会議の決定を受け、江戸在住の義士たちはどんなに意気込んだことか。元禄15年7月18日の大学差し置き決定が、元禄事件の折返し地点であったとすれば8月12日の舟中会議が江戸在住の義士たちの折返し地点だったのだ。

目次	・先が見えてきて思うこと 中島康夫 . . . 2	・業務報告 三輪三郎 . . . 11
	・袋入れ資料の譲渡について 中島康夫 . . . 3	・第14回忠臣蔵博士試験問題 中島康夫 . . . 12
	・中央義士会の歴史認識 8	・自由広告・今期入会新人紹介・編集後記 15

「先が見えてきて思うこと」

中島 康夫

中央義士会は発足以来108年目になる。その過程で、一時期戦時中政治的に利用されたことがあった。しかし、元来、中央義士会は「史実の研究」を目的とした団体なので、現在では、政治、新興宗教、思想団体とは関係を持たないようにしている。ましてや、私は今年後期高齢者になるまで、日本に政治家は居るのかと思って今日まで歳を重ねてきた。だから、国会議事堂は「ためき小屋」、都庁は「ぬるま湯温泉」と思ってきた。

それがこのところテレビを視聴している限りであるが、小池東京都知事の行動を拝聴していて、本物の政治家の姿を見た。正に、新宿「東京温泉」の演舞場で行われようとしている「小池劇場」の始まりである。尤も議会が終わっていることで、一幕は終わっているのかも。勿論、座長は小池百合子さんである。劇団のスタッフは「特別顧問」の面々である。キャストは、私の胸の内で決めているが、この会報では余りにどぎつ過ぎるため発表はできない。

しかし、テレビという電波芝居だけのことであるが、座長小池さんという方は、選挙中から現在まで実に細かいところまで一貫して気を配っている人であることが伺える。朝、眼を覚ますと「元禄事件」のことを考えている私にとって、小池さんこそあの「忠臣蔵」の瑤泉院に見えてきたのである。

瑤泉院、阿久利姫は、「忠臣蔵」の芝居では、松之廊下事件後に少々、討入り前の南部坂で少々顔を出すのみであるが、実話ではどうしてどうして、彼女こそが「元禄事件」の真の仇討ち主導者なのである。彼女こそが、浅野家滅亡後、自分の婚礼持参金の回収金を「討入り」の経費に提供した本人なのである。ちなみに、その額690両、現在の金額にして、6900万円以上はあると見ている。しかも、その「吉良討ち」のため、討入りの1年前に、瑤泉院、内蔵助、落合与左衛門の三人で密談を行っていたのである。

この事実を発表するのは私だけで、他の研究者は触れようともしない。だから、この国には「元禄事件」の真の研究家は居るのかと知っているのである。そのことは元禄15年11月29日の内蔵助の書状に目を通せば明らかである。この国に政治家は居るのかと同じ論である。以上の「三者密談」の後、内蔵助ら四十七人の「吉良討ち」の成功と、それが終わった後の自分たちの処罰も覚悟をしていたはずである。ところが、討入り後、幕府はこの事件を深く追及しなかったため、瑤泉院ら関係者に何の咎めもなかった。わずかに、遺児4名が大島に流されただけで済んだ。それもわずかな期間で済み、各大名は、こぞって義士の遺児を召し抱えたのである。

この辺のところも、現在進行中のNHK土曜時代劇「忠臣蔵の恋」で、場面が放映されると思うが、この放映の何ヶ月も前に、脚本家の吉田紀子さんと知り合い、なんどか会う機会があり、私なりの「元禄事件」の何がしかは、伝えてあると思っている。私の出版物も貸し出してもある。しかし、制作しているのは、NHK側であるし、史実通りには描き切れないものである。このドラマには、苦情もおほめも届いてはいるが、従来の「忠臣蔵」よりは、深く決まっているところもあるのでよしとしなければならない。

現在、某テレビ局で12月放映の「忠臣蔵物」にも深く関わり、台本の監修までしているが、それすら、こちらの思い通りにはいかないのが現状である。いよいよNHK「忠臣蔵の恋」も、これから瑤泉院の復讐が始まって行く粗筋になるはず。時あたかも、小池劇場でも、小池瑤泉院の復讐が始まろうとしている。この事は、おもしろ半分にあおりたてるのではなく、大成功に終われば、小池百合子さんは、後世に名が残る大政治家として忠臣蔵と同じ、何百年も語りつがれるであろう、と思う。

終わりに！東京都の吉良上野介は誰か。

私が生涯掛けて集めた袋入れ
資料を無料で差し上げます。

中島 康夫

私、中島康夫が生涯掛けて、集めた「元禄赤穂事件」研究の袋入れ小分け資料を貰って後世に伝えてくれる方か、団体を探しています。その中身は、写本、真書、図面、テープ、冊子等です。これらの資料は、B4かA4の袋に科目ごとに入れてあり、その数、只今900袋（収集途中）ですが、これから先も整理収集は続きますから、私が倒れるまで2万か3万の数になる予定です。私は死の直前まで、この作業を続けるつもりでおります。個人的には、私の行ってきた「元禄事件」研究の正道正論を継承してくれる方。団体的には、資料の価値がわかり、資料譲渡の有難味のわかる団体に譲りたいと思っております。

もう一つ条件は、中島康夫の「元禄事件研究」をある程度理解できる方、あるいは団体です。代理人の受付は致しません。勿論「研究」への反論は認めますし、反論や問いただしのある方には、逆に「元禄事件の真相」を教授いただけましたら、この上なくありがたい事でございます。資料の内容は、真書や新発見の写本など、一袋12万円の書物もございます。価値にしましたら、3,000万円位の価値はあると判断しております。それを無料で差し上げます。但し、運搬料はそちらでお持ち下さい。

私も今年で立派な後期高齢者になりましたので、先行きを非常に心配しております。どなた様でも御相談させていただきます。是非、ご相談の電話をお待ちしております。曜日・日時の制限はございません。一日も早く決めて安心してたく思っております。

尚、・目録を希望する方は、御相談下さい。（有料でお送り申し上げます）

- ・申し込みの方が、複数になりました場合は、決定まで時間が掛かりますことを申し上げます。
- ・熱意と誠意のある方の申し込みを希望しております。
- ・次ページより、袋入資料のリスト（一例）を示します。

080-8908-1633 中島まで

ろ組

1	「良雄」印の件	〔鑑定〕	星野亮蔵	24.10.18
2	石東家系図之写	〔コピー〕	足立宗法	昭2.2.6
3	赤城盟伝	〔写本〕	木村貞行	元禄15.11
4	東映「赤穂浪士」スチール写真			
5	佐藤條右衛門覚書	〔写本〕	三扶誠五郎	昭17.6.19
6	興宗寺・四十七士墓	〔写真〕	福岡市	
7	日本橋「長崎屋」		北斎	享和2
8	「錦帯池」への疑問		飯尾精	15.11.15
9	「赤穂義士史料」(上)(中)(下)の目録		渡辺世祐	昭6.3
10	岩屋寺の冊子		大石輝己	昭55.4
11	特集・忠臣蔵	〔雑誌〕	バンカル	平8.冬号
12	ハゼノキ説明文		島根渡辺	
13	赤穂落去留書	〔写真〕	赤穂市	
14	第2回東京あここの会		ニューオータニ	27.8.7
15	BS歴史館「忍」	〔CD〕	BS・NHK	24.8.23
16	赤穂の春	〔CD〕	加東竜次	20.3.5
17	クラブツーリズム・カタログ		遠藤信夫	27.9.16
18	中山・堀部親子父子契約		三扶誠五郎	昭9.6.20
19	新発田市忠臣蔵サミット		第10回	10.5.22
20	浅野長矩論・花岳寺版		片山伯仙	昭30.3.14
21	大石慎三郎論への反論		柚 正規	10.2.26
22	富森・磯貝両者覚書〔筆コピー〕		東京大学	堀内蔵
23	落合与左衛門史料		落合 浩	7.4.22
24	理玖と佐々十竹の関係		明徳会	22.5.19
25	大石良知のその後〔記事〕		高輪保義団	昭36.2
26	大河原文書・訳文・写真		大河原家	6.2.2
27	沾徳随筆	〔活字〕	日本俳人協会	
28	中央義士会会報・日南追悼号		29号	昭7.6.14
29	安兵衛の住居資料		新宿郷土会	昭63.9.1
30	芝居・イベントのチラシ		中島集め	

ろ組

3 1	室鳩巢資料	西川 章	
3 2	江戸時代廻船資料	佐藤晃生	
3 3	大石内蔵助の生立 〔講談本〕	桃中軒雲右衛門	明倫社
3 4	赤穂義士の討入り従軍記 〔雑誌〕	人物往来	昭 33.5 月号
3 5	本の話・忠臣蔵特集 〔冊子〕	菅野高至	10 年 11 月号
3 6	板橋グリーンカレッジ 〔時習〕	吉田 豊	20.3.12
3 7	諫懲後正・長矩記述	東京大学	
3 8	鎧の光山堂カタログ	浅野家あり	
3 9	たそがれ忠臣蔵	フジテレビ	14.9.22
4 0	HP ろんがいび目録	田中光郎	19.1.17
4 1	内藤家の諸家譜	越谷図書館	
4 2	日立世界不思議発見・吉良名君	荻原 栄	22.12.11
4 3	断家譜・浅野の部	巻 22 目録	
4 4	赤穂浪士にみる人間関係 〔冊子〕	平尾弧城	昭 41.4.26
4 5	間喜兵衛系 中山氏系譜		
4 6	赤穂市カタログ 〔英語版〕	赤穂市	
4 7	大野九郎兵衛にまつわる墓の謎	今井敏夫	5.7.1
4 8	おせどの大石稻荷	上森 茂	
4 9	赤穂義士神社創建願書	岸本綾夫	
5 0	「峠の群像」クレーム問題	稲垣史生	昭 57
5 1	柳沢吉保諸家譜・系図	第 164	
5 2	浅田家文書 〔冊子〕	小川幸代	昭 62.6 月号
5 3	武林唯七・福井市の墓 〔投書〕	田中外男	20.6.21
5 4	冷光君御伝記・済美録	佐藤 誠	
5 5	義士遺墨 〔コピー〕	高橋 寧	
5 6	門良院物語 〔コピー〕	墨田区緑図書館	
5 7	大法輪・赤穂浪士と日本人 〔コピー〕	志村有弘	15.1.1
5 8	笠間青年会議所・中島講演	稲光閣	24.3.23
5 9	理玖・里帰りの事情	瀬戸谷HP	25.7.7
6 0	大石頼母助・鶴姫 〔墓写真〕		

ろ組

6 1	江戸城殿上の間図	百楽天より	
6 2	元禄事件年譜	花岳寺版	平 9
6 3	毛利家乗 〔板垣昭次〕	テレビ朝日	13.10.25
6 4	本所緑町・寿劇場・忠臣蔵	杵屋政造	昭 15.1.30
6 5	吉良町広報誌「きら」	大溪紀雄	14.12.1
6 6	「元禄繚乱」展・展示替リスト	江戸博	11.1.26
6 7	茨城めぐり・浅野家文あり	山本秋広	昭 34.1.26
6 8	江戸時代刃傷事件史	遠藤誠一	
6 9	赤埴源蔵考 〔冊子〕	大倉隆夫	15.3.14
7 0	浅野長矩・長友・長矩三代	三好一行	
7 1	大佛次郎記念館の忠臣蔵展	福島行一	12.10.4
7 2	東京大学史料編纂所案内	HP より	25.3.11
7 3	武蔵の吉良氏についての研究	荻野三七彦	昭 40.5.14
7 4	新発田市忠臣蔵サミット	第 25 回	25.11.1
7 5	吉良義周受け入れの高島諏訪家	諏訪市	9.3.27
7 6	高輪牛町	港区資料館	14.12.2
7 7	城西国際大学忠臣蔵展ポスター	木版画展	21.6.9
7 8	江戸府内図・両国・深川	三彩堂	昭 51
7 9	忠臣蔵シンポジウム	赤穂市	14.3.14
8 0	赤穂先哲遺墨遺品展覧会目録	赤穂義士会	昭 41.2.14
8 1	赤穂義士の佩刀一考察	?	?
8 2	元禄 1 4 年日食について	佐藤晃生	6.7.14
8 3	東映「赤穂義士」シナリオ	養成所版	
8 4	佐原桜門会「忠臣蔵外史」	本多美智男	平元 11.18
8 5	忠臣蔵地誌 〔全集補巻 5〕	眞山青果	昭 52.7.10
8 6	BPO 放送倫理機構要項	鮑戸 弘	8.5
8 7	畠山晴行（百楽天）遺稿		
8 8	赤穂義士論に関する考察	田中佩刀	3.3.1
8 9	海老名氏資料 〔写真〕	相生市	
9 0	赤穂浪士研究の再出発 〔冊子〕	片山伯仙	昭 22.2.4

ろ組

9 1	「忠臣蔵」登録商標	一番ヶ瀬	17.4.1
9 2	三次市駐車場四十七士看板	写真あり	20.9
9 3	塩をめぐる忠臣蔵	尾崎秀樹	昭 45.12
9 4	豪徳寺縁起書	門菴宗関	昭 57.7
9 5	改定史籍集覧〔第 16 冊〕	臨川書店	明 35.11.30
9 6	東播と義士（東播郷土史概説）	小野小学校	昭 11.11.11
9 7	江戸城松之廊下・平河門〔写真〕	吉田泰仁	26.3.29
9 8	素行会写真	井筒蔵	昭 41.10. 3
9 9	義士魂・寺坂反論冊子	大石神社	平 2、平 3
1 0 0	舟橋聖一関連資料・写真	井筒蔵	
1 0 1	義士魂・寺坂信成記事	佐藤 誠	20.11.20
1 0 2	千場京子（広井桂）の手紙	中島宛	平？7.18
1 0 3	花岳寺パンフレット	片山伯仙	昭 48.4.1
1 0 4	小村寿太郎記事〔会報〕	亀田威夫	昭 37.3.1
1 0 5	「究極の忠臣蔵」講演	中央学院大学	19.11.7
1 0 6	富士吉田市の文化財・古文書	菅沼英雄	昭 51.6.20
1 0 7	史跡探訪・東京史跡巡り	平塚史好会	5.3.7
1 0 8	亀岡豊二略歴書	初代理事長	
1 0 9	山鹿流兵学と赤穂義士〔会報〕	佐佐木杜太郎	昭 39.12.1
1 1 0	井沢擁護者・島田一文とのやりとり	島田一文	21.7.27
1 1 1	義士伝一夕話〔伝記学会〕	伝記より	昭 10.11.20
1 1 2	ルーズベルトと忠臣蔵〔新民会報〕	木村 毅	昭 33.11.1
1 1 3	東軍流と大石内蔵助	加来耕三	4.12.9
1 1 4	近松勘六の妻に関する資料	中村孝也	
1 1 5	豊岡市・大石りくまつり	豊岡義士会	20.10.24
1 1 6	渋川図書義士批判状		
1 1 7	吉良上野介・麻布下屋敷図	府内沿革図	嘉永元年
1 1 8	NPO 認証書	東京都	21.12.9
1 1 9	全国「赤穂」の地名について	山田明憲	12.10
1 2 0	赤穂城図	赤穂市	

中央義士会の歴史認識

本歴史認識は、平成 18 年 12 月号会報に発表し、平成 19 年 6 月号会報にて変更・追加したものに、今回再度見直しをし、追加したものである。

(1) 徳川綱吉は名君とはいいい難い

典型的な封建君主政治における、彼の非人道的行為偏狂性を見ると、綱吉を名君とあがめる曲学阿世の論者には、逆に論者の精神構造を疑うものである。

(2) 吉良上野介は名門ではあるが、名君ではない

名君とは上杉鷹山のような方を指すのである。土手や塩田を作って名君ならば、日本国中の殿様は全員が名君になる。名君説を称える方々は、自分の思いばかりでなく、論証をすべきである。地元が名君といっているのは単なる明治以降の伝承である。

(3) 吉良町の黄金堤は吉良上野介が作ったものではない

地元の歴史家が証明している。

(4) 元禄 14 年の勅使饗応役の責任者は吉良上野介ではない

拜命したのは浅野内匠頭であり、課役としての出費も内匠頭が担当している。吉良はたんなる差添役である。したがって、不名誉な事件が起これば全責任は吉良が受ける、の理論は見当違いである。この理論を正視しなければ、後の討入りも偏見することになる。

(5) 浅野と吉良は幕閣が組み合わせたのではない

3 月 14 日の浅野と吉良の両者の相役は、3 月月番である吉良と偶然に組み合わせられたものである。そのことを証する史料として「沾徳随筆」がある。

(6) 松之廊下事件の原因は、吉良上野介の陰湿ないじめである

証拠がないと主張する方々は、現代の学校でのいじめで証拠がないと主張する方々と同じである。よく学んで勉強し直すことである。「金丸覚書」「系図附録」「赤穂義人録」「沾徳随筆」「岡本元朝日記」を読み直すべき。

(7) 松之廊下事件は突発的に起こった

江戸城内で起こった他の事件と比べても、突き刺していない点や、刀が顔面に向かって点などから、悪口を耳にして突如切り付けたものである。

(8) 浅野内匠頭は精神の病ではないが、強情な面もあり、融通性に欠けるところもある

平成 18 年 12 月の細川家の史料発表により、内匠頭は自分の主張を通すかたくなな性格が見られ、それが松之廊下刃傷の要因の一部である可能性がある。

(9) 浅野内匠頭の一太刀目は額にあたった

吉良は後ろの高家衆に向かって、内匠頭を罵った。それを聞いた内匠頭が高声をあげたため、吉良は梶川の方へ向き直った。そのとき内匠頭の刀が吉良の額に入った。この日本に学者も含めて「梶川筆記」を正読できる方は何人いるだろうか。

(10) 吉良上野介のいじめレパトリーの中に畳表替えはあった

「寺坂私記」にその予定であった記述はある。最近では「岡本元朝日記」で証明される。

(11) 刃傷事件の背景的原因はない

「吉良の天皇御譲位問題」「吉良の鍛冶橋邸類焼問題」などの説があるが、いずれも証明方法がない。単なる伝承や作り話にすぎない。日比谷右近問題は再調査が必要。

(12) 吉良上野介が本所へ移ったのは 9 月 3 日である

8 月 19 日は屋敷替えを仰せつけられた日である（東京市史稿）。本所へ移った理由も義士たちに討たせやすくするためではない。

(13) 「預置候金銀請払帳」は 1 冊ではない

元禄 15 年 8 月まで矢頭長助が記帳していた 1 冊がなければならない。現存する 1 冊は清書されたもので、記帳者が最初から最後まで一人で変わっていない。

- (14) **金銀請払帳その他 16 点の品々は 12 月 13 日甚三郎によって、落合与左衛門まで運ばれたのである**
「落合与左衛門覚書」「江赤見聞記」を良く読むこと。11 月 29 日は運ばれた日ではない。
- (15) **大石内蔵助の第一次東下りの主目的は、690 両の取付けと、瑤泉院への復讐の誓いである**
11 月 29 日付けの落合宛の書状にある一義である。一義を浅野家再興も含めてみるのは間違い。再興運動は旅費も含めて 50 両しか使っていない。それで再興できるか考えれば一目瞭然だ。
- (16) **大石内蔵助は元禄 14 年中の早い時期に、吉良を討つことを決めていた**
元禄 15 年 2 月 16 日の書状、元禄 15 年 12 月 13 日の書状等による。
- (17) **大石内蔵助は諸説で述べられているほど遊興していない**
「朝原重栄覚書」による。内蔵助は、親戚に自分を義絶するように画策していた。
- (18) **理玖は豊岡里帰りの際、一人の子供だけ連れて行ったのである**
るりは進藤家の養女になっていた。吉千代は一足先に豊岡へ行っていた。一緒に帰ったのは、くうだけである。
- (19) **義士たちは江戸と京都（上方）で、変名を使い分けていた**
大石内蔵助は、京都では池田久右衛門、江戸では垣見五郎兵衛のように。他の義士も同様に使い分けていたようである。「斎藤文書」による。
- (20) **大石内蔵助が第二次東下りの際、実際に江戸へ入ったのは 10 月 30 日である**
内蔵助は、30 日にはこっそり江戸へ入り、会合を繰り返していた。「寺坂私記」「伊藤覚書」により証明される。したがって平間村には 4 日間しか宿泊していない。
- (21) **寺坂吉右衛門は、元禄 15 年 11 月 19 日の段階で、上方へ登る計画であった**
貝賀弥左衛門の 11 月 19 日の書状に認められる。
- (22) **大石内蔵助は羽倉斎家との交際はない**
大石父子とあるのは、大石無人と三平をしていうのであって、諸先覚は錯誤している。
- (23) **大石内蔵助の主家再興運動費は 50 両しか使っていない**
旅費も含めて、手みやげ程度の費用で柳沢相手にどこまで浸透していたか、はなはだ疑問である。
- (24) **討入りの兵法は、山鹿流だけの作法に則った訳ではない**
内蔵助自身山鹿流をマスターしていたわけではなく、元々赤穂浅野家の流派であった甲州流もアレンジしていた。
- (25) **12 月 14 日は両国堀部弥兵衛宅へ全員が集まるよう言い渡されていた**
表面上は門出の祝儀としていたが、実際は討入りへの第一関門だったのである。
- (26) **寺坂吉右衛門は逃亡者ではない**
論ずる必要もない。もし逃亡者と思う方は、研究をやりなおすべきである。
- (27) **寺坂吉右衛門は浅野内匠頭の墓前まで行っている**
討入り後、吉右衛門は内匠頭の墓前まで行っていることは、史料で確認できる。
- (28) **大石内蔵助は、浅野内匠頭の墓前で短い文ではあるが、祭文のようなものを読んだ。**
これは近年「甚三郎文書」により、改めて史料が再確認できた。
- (29) **「白明話録」は全て真実である**
白明という修行僧が 53 年後に書いたもので、とても内容は信用できないと主張する者がいるが、その方は語る資格なし。白明はメモを取っていたのである。
- (30) **義士戒名の刃劔は、切腹したからでもなく、激闘したからでもない**
9 世酬山長恩が、碧巖録 41 則古徳劔上の公案より採用したのである。
- (31) **討入り後、学者による表面論争はなかった**
独裁者綱吉の前で自由な論争ができるわけがない。

- (32) **大石内蔵助は、東軍流の免許皆伝ではない**
現在、起請文なるものがあるが、起請文は単に入門の際差し出すものである。
- (33) **寺坂吉右衛門は浅野家の陪臣ではない**
陪臣と思っている方は、歴史を最初からやり直す必要がある。大学の講師ですらこの区別もできないのにはおどろきである。
- (34) **元禄事件の起きた時代の赤穂浅野家は 5 万石である**
5 万 3500 石という方は、勉強のやり直し。
- (35) **徳川実紀は正しい内容である**
これも幕末に編集されたものであるから、内容は信に足りないと主張される方も、勉強し直しである。これも下地になる条文が残っていて、それに従って書き直しているのである。
- (36) **「赤城義臣伝」は学術的史料として使用する場合は注意が必要**
1 級史料ではない上に、江戸時代の読み物である。
- (37) **堀部安兵衛の妻名は「キチ」である**
堀部安兵衛の 12 月 14 日の手紙に「キチ」とある。
- (38) **橋本平左衛門の雅号は「進歩」である**
復本一郎氏の「進歩」寺坂論は、いかにも貧弱であり決定打がない。寺坂にはもともと「萬水」の雅号がある。
- (39) **「多門伝八郎筆記」(写本)は疑問はあるが、一級史料である**
現在、本物がない以上認めざるをえない。
- (40) **内藤忠勝の事件と松之廊下事件とは関係ない**
内藤事件をとりあげて、内匠頭との血統説を述べる方は、小説的にしか判断できない方である。屋敷が隣り同士のトラブルでもめていた。
- (41) **大石内蔵助に関わる女性は 4 人である**
理玖(本妻)、桂(相生知行地)、家女房(リヨの母)、かる(山科)
- (42) **元禄事件の研究はし尽くされていない**
特に学者にこの種の研究はし尽くされて、もうなにも出ない旨、主張される方が意外に多いが、もっと正視しろ。まだまだわかっていないことが沢山ある。
- (43) **書簡の日付は、その日に発送したとは限らない**
必ずしもその日に発送したとは限らないので重ねて考査すること。
- (44) **土芥寇讎記が示してある浅野内匠頭の批評は史実とは全く違う**
歴史学として価値感はあるが、隠密の報告は全て虚偽の報告である。したがって内匠頭の内容も他の史料とマッチするところがない。
- (45) **天野屋利兵衛は元禄事件には関係なく、最大の援護者は綿屋善右衛門である**
京都本妙寺の「斉藤文書」による。また、天野屋関与の一級資料なし。
- (46) **大野九郎兵衛は一代家老ではない**
浅野家の旧領真壁地方には、大野九郎兵衛の父君が遺した書状が多数現存する。
- (47) **大野九郎兵衛は、松之廊下事件の時は、城代家老だった**
大石内蔵助が城代家老だという方がいるが、それは間違い。事件の時の城代家老は大野九郎兵衛である。
- (48) **瑤泉院は寛文九年生まれの 33 歳であった**
三次浅野家濟美録に、松之廊下事件当時、あぐりは 33 歳とある。大石内蔵助の妻と同じ年齢である。
- (49) **浅野大学の所領は知行地としてもっていたのではない**
浅野大学の所領 3000 石は、赤穂浅野家 5 万石の内、新田 3000 石を与えられていたのである。

平成28年 中央義士会 業務報告

担当 三輪三郎

年 月 日	項 目	備 考
H28.1.17	第75回月一勉強会 最近の忠臣蔵否定派の動向等について	港区生涯学習センター
1.24	旧細川邸(大石内蔵助ら切腹の地)有志メンバーによる掃除	旧細川邸 参加者8名
1.31	第16回忠臣蔵愛好会 赤穂義士引き揚げコースを歩く 両国駅→永代橋→泉岳寺	中島理事長 参加者40名
2.4	赤穂義士命日 泉岳寺参詣	富岡副理事長
2.7	第76回月一勉強会 ①松之廊下事件 ②読み付け 佐藤條右衛門覚書	芝浦港南区民センター
2.13	天野弥五右衛門に関わる地護稻荷神社初午祭 上野3丁目町会	中島理事長、荻原常務理事
3.13	浅野内匠頭追憶の集い(浅野内匠頭第316回忌)	泉岳寺
4.10	第77回月一勉強会 ①瑤泉院 その生涯 ②読み付け 佐藤條右衛門(最終回)	港区生涯学習センター
4.24	第17回忠臣蔵愛好会 新しい忠臣蔵＝神田 湯島聖堂→天野弥五右衛門邸跡→浅野梅堂邸跡→神田古書会館	中島理事長 参加者20名
5.15	第78回月一勉強会 ①磯貝十郎左衛門について②読み付け 赤穂実記(第1回目)	港区生涯学習センター
5.22	中央義士会理事会 平成27年度決算承認等	港区生涯学習センター
6.12	第79回月一勉強会①村松喜兵衛について ②読み付け 赤穂実記(続き)	港区生涯学習センター
6.21	旧細川邸扉改修工事打合せ	富岡副理事長立ち合い
7.10	第80回月一勉強会①赤埴源蔵について ②読み付け 赤穂実記(続き)	港区生涯学習センター
8.5	東京あこうのつどい ホテルニューオータニ	富岡副理事長他
8.7	第81回月一勉強会①明治天皇と忠臣蔵 ②読み付け 赤穂実記(続き)	港区生涯学習センター
9.11	第82回月一勉強会①中央義士会の歴史認識 ②赤穂実記(続き)	港区生涯学習センター
10.2	第83回月一勉強会①片岡源五右衛門について	港区生涯学習センター
10.22,24	国立劇場忠臣蔵バスツアー	中島理事長
11.6	第18回忠臣蔵愛好会 待乳山聖天と赤穂義士	中島理事長 参加者20名
12.10,11	両国元禄市出店	旧吉良邸跡
12.14	赤穂義士追憶の集い(討入り満314年) テレビ朝日 忠臣蔵番組「俳諧忠臣蔵」発売	泉岳寺 中島理事長 三輪三郎
12.22	新発田市忠臣蔵講演会「平成28年の忠臣蔵の総轄」	中島理事長

創立108年記念

第14回忠臣蔵博士試験問題

[受験資格について]

- ・ 受験料は無料ですが、受験資格は会員に限ります。

[解答票の配布について]

- ・ 第 14 回忠臣蔵博士試験の解答票は、勉強会などで配布致します。別途必要な方は本部（FAX 048-973-3790）までご連絡下さい。FAXでお送りいたします。または、メールで中央義士会のメール（chuogishikai@tokyo.email.ne.jp）までご連絡下さい。折り返しメールでお送りいたします。

[解答票の送付]

- ・ 解答票は本部まで（FAX 048-973-3790）FAXで送付下さい。

[解答に際しての注意事項]

- ・ 試験問題の解答を調べるために、お電話等で各施設へ直接問い合わせることはおやめ下さい。
- ・ 同じく、会員同士でも試験のための連絡はおやめ下さい。特に申し上げたいのは、連絡しあっている方は、同じ答えで間違っているのですぐにわかります。
- ・ 問題をよく読んで、一言一言理解した上で、解答して下さい。問題を読み間違えないようお願い致します。ひっかけ問題がたくさん出題されています。
- ・ 文章での解答については、解答者が理解しているかを判断基準にさせていただきます。
- ・ 文章での解答については、要領を得ない場合は失点とします。
- ・ 解答がないと思われる場合は「なし」とだけ記入して下さい。
- ・ 文章を求める答えで、別紙を添付しても構いません。
- ・ **最終提出日は、平成 29 年 10 月末日です。**

平成28年12月

第1問	水間沾徳の「浅野氏家滅亡之濫觴」の内容が、松之廊下事件の直接の原因と思われるか。 ①直接の原因 ②原因の一要因 ③全く関係ない
第2問	では、どうしてそのように思うのか、その理由を述べて下さい。
第3問	「預置候金銀請払帳」が、甚三郎によって、落合与左衛門へ運ばれたのは、11月29日と主張される方がほとんどです。11月29日説の方々をどのように思いますか。 ①正しい ②よく研究していない ③日付通りに考えている
第4問	大石内蔵助はなぜ、11月29日の日付で書状などを用意したのでしょうか。その理由を述べて下さい。

第5問	近松勘六の妻の墓はどこにあると思いますか。
第6問	近松勘六と近松門左衛門が親戚同志という口伝本が出版されておりますが、何という本でしょうか。
第7問	元禄14年3月21日に、大石内蔵助は先ず、何をしたのでしょうか。
第8問	大石内蔵助は、赤穂から山科へ移るに際して、妻子を先に出発させます。どうしてでしょうか。
第9問	江赤見聞記が活字で流布されておりますが、その元となった家伝書は何という題名でしょうか。
第10問	第9問の家伝書は、どこの家に伝わった覚書でしょうか。
第11問	第10問の家伝書は、現在どこの施設が保管しているのでしょうか。
第12問	続に「大河原文書」といわれている古文書は全面公開されているのでしょうか。
第13問	松之廊下刃傷の原因を示す最も正当正論の史料名を一つ挙げて下さい。
第14問	大石内蔵助の実父・良昭はなぜ大石家を継がなかったのでしょうか。
第15問	大石内蔵助の母(くま)の死去の際、一切の面倒を見て、墓石まで建てた方はどなたでしょうか。
第16問	豊臣秀吉の家来「佐々成政」と家系に当たる方はつぎのうちどなたでしょうか。 ①茶々 ②ねね ③りく ④阿久利
第17問	近年「忠臣蔵物」を描く戯作の優れた作品が出来ませんが、どうしてだと思いますか。
第18問	討入り時、吉良邸の近くには本所奉行、さらに吉良の親戚もたくさんあったのですが、なぜ応援に駆けつけなかったのでしょうか。

第 19 問	東京大学史料編纂所の所管する「梶川氏日記」に対して思うところがあれば述べて下さい。
第 20 問	大石内蔵助が山科在住の頃、家来の瀬尾孫左衛門が余り姿を現していませんが、瀬尾はどこで何をしていたのでしょうか。
第 21 問	赤穂浅野家が平穏だった頃、藩士の病気の診察をしていた藩医を一人挙げて下さい。
第 22 問	松之廊下刃傷の直前、吉良上野介は御用部屋を訪れていましたが、何の用事で訪れていたのでしょうか。
第 23 問	「田村家直勤帳」付図の勅使御馳走人の位置について説明して下さい。
第 24 問	松之廊下刃傷をよく「後から切り付けた」ことになっておりますが、 誰の後 なのでしょうか。
第 25 問	山鹿素行の「謫居童問」の童とはどなたのことでしょうか。
第 26 問	「重餅」は何家の家紋でしょうか。
第 27 問	大石内蔵助は、松山城請取の際、1年9ヶ月在番を命じられましたが、その時の宿所はどこだったのでしょうか。
第 28 問	「隆」の文字であなたは何を思い浮かべますか。
第 29 問	僧祐海と関係ない寺院はどれでしょうか。 ①無量光院 ②遠林寺 ③鏡照院 ④正福寺
第 30 問	大石内蔵助と遠戚でない方はどなたでしょうか。 ①近松勘六 ②潮田又之丞 ③不破数右衛門 ④片岡源五右衛門

注意：・文章での解答が多いので、月一勉強会、水曜ゼミなどでなるべく解説をして参ります。

勉強会の出席を第一と考えて頑張ってください。

・解答が的確でない場合、△印が付く場合がございます。△が2つで1点減点となります。

・問題そのものについてのご質問は幾つでも受け付けますので、何度でも聞いて下さい。

中央義士会

勝田新左衛門子孫

評議員 **勝田芳造**



東京都足立区在住

中央義士会

評議員 **金子堅一**

東京都荒川区在住

日蓮宗

高光寺

三好 一行

赤穂市加里屋一八六一

忠臣蔵倶楽部から、「俳諧忠臣蔵」を発刊しました。十六歳の若者、七十七歳の老人が、どんな思いで討入り、散っていったのかじっくりご愛読下さい。

中央義士会理事 **三輪三郎**

川崎市麻生区在住

健康です、テニスを楽しみます！

高松ローンテニスクラブ

オーナー 上原 益雄
中央義士会 評議員
東京都練馬区高松

中央義士会

常務理事 **萩原 栄**

中央義士会のホームページは <http://www.chushingura.net/> です

開業支援 訪問看護 訪問リハビリテーション
居宅療養管理指導等

株式会社メデイカルオフィス ベラ

代表取締役

武類俊哉

東京都北区在住

中央義士会

評議員 **成清寛徽**

千葉県浦安市在住

中央義士会

副理事長 **富岡 克**

東京都中央区在住

私は六十年間、中央義士会に在籍して居ります。

特別会員 **大内満利子**

仙石伯耆守子孫

元東京大学史料編纂所所長
元中央義士会会長

渡辺世祐博士

子孫

渡辺 寛

現中央義士会 顧問

中央義士会

会長 **浅野 長**

大石頼母助子孫

★新入会員紹介★ (敬称略)

地区	会員別	芳名
品川区	一般	田中 惺士
八千代市	一般	露木 和代
夷隅郡	一般	中西 勉
品川区	一般	山本 晋賢
さいたま市	一般	片岡 由美子
千葉市	一般	石渡 千歳
世田谷区	一般	石塚 啓子

引揚げコースを歩きましょう

毎年の恒例になっております、吉良邸跡から泉岳寺まで、赤穂義士が引揚げたコースを、専門家の案内で忠実に辿ります。元禄十五年十二月十五日は、現在の暦で一七〇三年一月三十一日となります。その日にできるだけ近い休日に、季節感を感じながら歩きましょう。また、特別に、大石内蔵助ら十七名が切腹した地も鍵を開けて見学いたします。

日時 平成二十九年一月二十九日(日)
 集合 九時十五分 JR 両国駅西口付近
 出発 九時三十分
 コース 吉良邸跡〜両国橋〜永代橋〜聖路加ガーデン(昼食)〜赤穂浅野家上屋敷跡〜新橋〜金杉橋〜御田八幡〜泉岳寺〜旧細川下屋敷跡切腹地
 会費 会員 千円 一般 千五百円
 申し込み 郵便局の払込票で会費をお送り下さい。
 中央義士会 〇〇一三〇一〇一五四五六八
 通信欄に「引揚げコースを歩く」と記入下さい。

昼食は、銘々で取って頂きます。聖路加ガーデンには、沢山食事処があります。

訃報

長い間、我が会の神田営業所所長として、忠臣蔵関係本を集めて頂いておりました、文泉堂社長小西重兵衛様が、十月二十七日に亡くなられましたことをご報告致します。
 尚、当会古書事業は、今後も従来通り続けて参りますので、今まで通りよろしくお願い申し上げます。

西尾市の学芸員の方々に告ぐ

天皇が一度深く嘉賞した者たち(四十七士)を、マスコミの場を借りて、テロ呼ばわりする言動は、公共のお仕事に携わる方々としては、不敬に当たるのではありませんか。
 中島康夫

会員募集

中央義士会では、広く研究員や会員を募集しております。元禄事件の真理を学ぶことにより、歴史を見通す力が身につけて参ります。学歴や職業で差別することとは、決してございません。また、会として、政治運動、新興宗教の勧誘、思想の押付、正義の押し売りとは、一切無関係の団体です。

唯々、学問的眞実あるのみです。
 中島康夫

編集後記

今年は例年になく多忙であった。テレビ朝日の忠臣蔵番組のため、十回以上は、テレビ局に足を運んだ。さあ、どんな番組ができるやら。放映は十二月十四日。

十月の国立劇場主催のバスツアーの際、参加者の一人から「吉良さんがかわいそう」の一言があった。テロの言葉が少し静まったと思っていたら、今度は「かわいそう」の言葉がでた。ああ、この方も物事を一面からしか見ていないなあ、と思った。あの時代、吉良親子(義冬・義史)ほど悪いやつはいなかったのである。皇室からも嫌われ、大名からも嫌われ、庶民からも嫌われ、いかなれば、江戸城のゴキブリ状態であった訳である。

三百十二年たった現在でも、育ちの悪い親に育てられた一人の子どもの「いじめ」から、犠牲者が出ている。その現状を政治家は本腰を入れて改める努力をしてほしい。国会議事堂には政治家はいないのか。

あッ、そういえば「大石内蔵助ら切腹の地」を一般に開放するよう、港区に働きかけている人が居るとか耳にした。聖地を荒そうとする不屈者の通りになりますか。

編集者 中島康夫(企画・編集・検証)
 萩原 栄(編集) 富岡 克(校正)
 中西 勉(校正)
 (株)正大印刷社(印刷)